

平成 26 年度第 1 回奈良市総合計画審議会第 1 部会会議録

開催日時	平成 26 年 11 月 1 日（土）午前 9 時 30 分から午前 11 時 00 分まで	
開催場所	奈良市役所 北棟 6 階 第 21 会議室	
議 題	1 前期基本計画の総括について	
出席者	委 員	埋橋部会長、岡田委員、佐久間委員、藤本委員 【計 4 人出席】（松田委員は欠席）
	事務局	総合計画策定委員会委員及び関係課長、総合政策課職員
開催形態	公開（傍聴人なし）	
担当課	総合政策部総合政策課	
議事の内容		
1 前期基本計画の総括について 事務局より、資料 1 から資料 5 の説明を行った。		
〔質疑・意見の要旨〕		
埋橋部会長	<p>事務局から説明がありましたとおり、後期基本計画の策定に向け、前期基本計画の進捗状況等について評価を行い、後期基本計画期間の課題、すなわち問題点と、それに向けた解決策についてご意見をいただきたいと思います。</p> <p>事前に打ち合わせをさせていただきまして、考えるべき点はざっと 2 つあります。1 つは、貴重な数字等を出していただいておりますけれども、数字ではあらかわせない部分などについて委員の方から率直なご意見をいただければと思います。もう一つは、数字であらかわされた指標が、果たしてそれぞれの項目に関して妥当なものかどうかということもご検討いただければと思います。</p> <p>各委員からご意見を伺いたいのですが、まずは全体的に佐久間委員から詳細なご意見を頂戴しておりますので、こちらから先をお願いしたいと思います。佐久間委員、よろしく願いいたします。</p>	
佐久間委員	<p>佐久間です。今全体的にとリクエストがありましたが、かなり個別の内容も入っております。</p> <p>まず、全体的なことですが、市民アンケートの資料があり、統計的な数字も重要ですが、一番知りたいのは、受益者が一体どのような感想を持っているのかということです。あくまでもこれは、市側が「やっているんだよ」ということを説明するための資料になっていますが、受益者側がそれをどのように受けとめているのか、これがいわゆる数字ではわからない部分ではないかと思っています。</p> <p>ですから、アンケートの最後の 13、これはまちづくりなので、全般的なことになるかと思うのですが、幾つかのコメントが報告書</p>	

に入っていれば、この調査も非常に生きてくるのではないかと、いただいた資料の中で感じたところです。

それと、評価については、第1部会に関係するようなことはベスト2以内に入っているのではないかと思います、非常によくこなされていると思っています。各部会の担当部局によって案件数が違うので、一概には言えないと思うのですが、達成度から見たら第1部会が、結構こなしているのではないかなという感想を持ちました。

あとは、特に2-01から04、それから2-02から01、それから3-02から01のところについては、個別のコメントになります。

埋橋部会長 では、また個別にお伺いするとして、資料の順に、付箋をつけられたところを検討していきたいと思います。今、佐久間委員がおっしゃいましたように、C、Dなど評価はされていますが、「やっているんだよ」という資料であるというご指摘でした。先ほど私が申し上げましたが、数字ではあらかわせない部分などについて、ほかの委員からもご指摘をいただきたいと思います。

では、付箋の順番に進めていきたいと思います。まずは、施策2-01-01、「特色のある教育の推進」です。そのうち付箋が1番と4番と6番についてありますが、まず岡田委員からお願いします。

岡田委員 「特色のある教育の推進」ということで、コーディネーター等の研修や、地域のコーディネーターが増えているということが書かれています。僕の知っている限り、コーディネーターは地域でもいろいろな活動をたくさんされており、その場合やはり学校との連携が必要なのですが、学校側の先生がかなり忙しい中で、地域のコーディネーターがいても、学校との綿密な打ち合わせができないところが多いのではないかと思います。管理職の先生が対応されていますが、もともと校務で忙しいので、十分な時間もとれないし、地域のほう動き出しても、学校と連携するためには、学校の条件が整わないとなかなかできないのではないかなと思います、少し書かせてもらいました。

佐久間委員 特に付箋がついているところだけでなく、全般的に見てですが、まず2-01-01の「特色のある教育の推進」の施策目標は、当然これではないといけないと思っています。目標の1で、取り組みとして、グローバルな視点と伝統文化というところがあります。これは全般に通じるのですが、ここで考えているグローバルな視点、あるいはグローバル教育というのはどういったことを言うのかということが、もう少し具体的な形で、資料のほかのところに出てい

るのでしょうか。今年度から委員になったもので、今までの経緯がわからないものですから、場違いな質問かもしれませんが。

また、2番に関しては、特に奈良市内にも大学が多くあるため、もっと大学など既存の施設を活用するような方法を考えられないのでしょうか。私は以前から県に訴えてきたのですが、本当にそういった面での活用をぜひお願いしたいと思います。

3番の地域コーディネーターについては、どういったことをする方なのか、実態がつかめていないので、またどこを見ればよいか教えていただければと思っています。

4番の学校給食は、特に予算的な面でもいろいろ制約があると思いますが、安全・安心がどう保障できているのかということが、ここでは見えていないと思います。

5番目のICTの活用ですが、機器の補充は結構できているのですが、それを使いこなせる人がどれだけいるのでしょうか。というのは、教員の現場は本当に忙しく、新たにその研修を十分受けるだけの時間もないというのが実態ではないかと思っています。それなら、それをサポートする、英語のALTのような人をもっと活用できないかということを感じました。

6番は、ALTが19人ということですが、本当にこれで足りているのか、学校数から考えると少ないのではないかという感想を持ちました。

7番目は、特にこども園や幼保一元化についていろいろとされていますが、幼稚園が保育も抱えるようになると、ハード面がどの程度充実できるのか、十分やっていけるのかと思います。また、経験年数との関係も含めて、そこに携わる教員や職員の充実度は十分達成できるのかという疑問がありますので、その辺りを教えていただければと思います。以上です。

埋橋部会長

ありがとうございます。まずは、問題の頭出しをしなければならないと思うのですが、私が「特色のある教育の推進」について思うことは、7番です。こども園推進ということで、「幼稚園での教育・保育の充実のために1クラスの人数を30人にし」とあるのですが、1クラスが30人を割っているところがたくさんありますので、こども園に向けて動くことは必至であろうと思われるのですが、幼稚園、保育園の組織において、具体的にこども園化に向けての研修をしているのか、また、その研修がどの程度効果を出しているのか、また、それを評価するためには何を指標とするかということをもっと少し明確にさせていただきたいと思います。

続いて「幼児教育の充実」に進めさせていただきたいと思います。

藤本委員 今のご意見について、ちょっとよろしいですか。確かに幼稚園が教育で、保育園が福祉という形になっていますが、今の保育園は、決して今までのような保育園ではなく、幼稚園と同様、教育を兼ねた保育を十分にやっておりますので、いずれにしてもそう心配しなくていいのではないかと思います。

一緒になるにあたって、私が一番心配しているのは、やはり人間関係です。

埋橋部会長 人間関係ですか。

藤本委員 幼稚園教諭と保育士との関係は、今どうなっているのでしょうか。以前は少しやりにくかったと聞いていますが、今はうまくいっているのでしょうか。

子ども未来部理事 市立の幼稚園と保育所に関することだけに限りますが、こども園化に向けて、3年前から市立幼稚園の事務を子ども未来部に順番に移しており、今年度、ほぼ全ての事務をこども園推進課で担当するようになりましたので、市立の保育所と幼稚園については、どちらもこども園推進課のほうで事務を担当しております。

教員の研修等については、昨年から2年にわたって、幼保の合同研修ということで始めており、昨年は全体研修を5回、そのほか、お互いの保育を見学するために、保育園から幼稚園に見に行く公開保育を4回と、幼稚園から保育園に見に行く公開保育を1回実施しました。今年は、さらにそれを幼稚園側から3回、保育所側から3回実施します。

もう一つは、こども園のカリキュラムを幼保の先生方が、お互いに話し合いながら、一緒になって作成をしており、理解が深まってきております。また、人間関係のことをご心配いただいておりますが、昨年から幼稚園の園長が、保育所の様子を知るために、朝から子どもが帰るまでの時間帯を通して、保育所に2日、3日行く、逆に保育所の園長が幼稚園に行く、ということをして始めており、園長から始めて、副園長、5歳の担任、4歳の担任、3歳の担任が2、3日は必ず1日通して園に行くということをしてしていますので、お互いに声をかけられるような関係にはなってきており、徐々に準備はできていると思っております。

藤本委員 ありがとうございます。

佐久間委員 私は今よく幼小の連携と言っているのですが、今ここで出ているの

は幼保だけです。何か先導的な形で奈良市が特色を持つことを実施するなら、幼小の連携も試みる考えはおありでしょうか。

子ども未来
部理事 既に国の制度で認定こども園ができましたので、平成 21 年に幼稚園型の認定こども園を 1 つ設置し、現在、幼稚園型を 4 園、保育所型を 1 園、合計 5 園の認定こども園を設置しています。

27 年 4 月から新制度が始まり、その中で、新たに「幼保連携型認定こども園」という第 3 の認可施設ができますので、大きな方向としては、市立の幼稚園、保育所を統合再編しながら、この数年の中で市立の幼稚園、保育所を廃止して、全てを幼保連携型認定こども園に再編していくという計画を立て、特色のあるものとして進めているところです。

佐久間委員 小学校との連携について、まだお考えはありませんか。

子ども未来
部理事 小学校との連携につきましても、昨年度から文部科学省の幼児教育の改善・充実のための事業として、幼保小の連携に関する教員研修のあり方を研究しております。大きな流れとしては、幼稚園や保育所で身につけた力を小学校の先生方にどのように伝えて、それを小学校の先生方が受け取りながら、小学校の教育にどう生かしていくのかについて、モデルを持ちながら研究しているところです。

佐久間委員 ぜひお願いしたいと思います。幼稚園と小学校が同じ敷地内に立地しているところが幾つかあると思うのですが、そのようなところはモデル的に試行されたらどうでしょうか。もしそういったことが可能であれば、お願いしたいと思います。以上です。

学校教育部
長 まず、大学との連携、活用について、どのような形で進めているのかということですが、複数の大学と連携協定を結びながら、様々な点で協働での取り組みを進めています。具体的には、大学から各学校へのスクールサポートの支援をいただいたり、教員免許の取得に関して大学と連携したり、教員研修については、大学から教育センターへの支援をいただきながら、進めています。

連携は、例えば教員の養成においても、資質の向上を図る上では欠かせないという認識をしており、そこを充実していなければならないということで、現在議論を進めているところです。

また、ICTの指導人材について、内部の人材、例えば指導主事が、学校にICTの活用方法を指導しに行くというだけではおぼつかない状態であるということは十分承知しております。指導のあり

方をどのように全体の体系として位置づけたらよいかを考え、外部の人材の力も借りながら、ICTを活用できる教員の指導力をつけていかなければならないということを考え、27年度に向けても今議論を進めているところでございます。

教職員課長 ALTの配置について、今年度の19名の配置が足りているかということですが、教育の中でどのように活用していくかを考えながら、新たに必要であれば、もう少し配置したいと考えています。

埋橋部会長 認可園や大学との連携について、非常に基本的なことをおっしゃっていただいたと思いますが、ここにあるのは、特色のある教育であり、奈良市としての特色ということがあまり感じられませんでした。この点については具体的にどのようにお考えですか。例えば、「奈良で学んだことを」とありますが、何を学ぶのか、少しでもお教えいただければと思います。

学校教育部長 今おっしゃったことは、先ほどお話に出たグローバルな視点というものをどのように整えるかということにも関係しますが、奈良は世界遺産が多く、そこには他の地域にない大きな特色があり、その特色を生かしながら、世界遺産学習の推進事業を位置づけています。そこで学習したことを通して、地域へのアイデンティティーをしっかりと培っていこう。その上に、先ほどから話に出ておりますようなALTを活用し、またICTの機器も自分たちの表現手法の1つとして使いながら、自分たちが地域のすばらしさを感じ、それを発信できるような、グローバルな人材を育てていこうと考えており、それを奈良における特色ある教育として進めていこうとしております。

保健給食課長 学校給食の安全・安心をどのように担保しているかというご質問について、特に食材に関しては、世間には外国からの輸入食材がたくさん出回っていますが、基本的に学校給食における食材は国産です。肉、野菜類、加工食品等があり、魚介類については一部外国産でないとしても手に入らないものがございますが、基本的には国産のものを使用しております。

また、東北の震災等の関連で、いわゆる17都県の食材は基本的には使用しないと決めておりますが、どうしても月によっては使用せざるを得ない状況もありますので、その場合には、全て事前に放射能検査等を行っております。以上でございます。

埋橋部会長 ありがとうございます。この 01 項目につきまして、ご意見はございますでしょうか。

では、次の 02「幼児教育の充実」のほうに移ります。佐久間委員、お願いいたします。

佐久間委員 基本的には、施策目標や達成度がどうかという点について、目標自体を変えるというのは別な問題かと思っています。

しかし、施策がどんどん拡大していただくだけではなく、選択と集中的な発想が必要ではないかと思います。幼児教育の面では、幼保一元化の取組がいろいろありますが、その辺りについて、岡田委員か藤本委員に何かお考えがあればお聞かせいただきたいと思います。

保育園や幼稚園に小学校も含めて、異校種連携ができれば、これもまた特色になるのではないかと思います。それを考えると、全てできるわけではありませんので、一番嫌な言い方かもしれませんが、選択と集中についても考えて、人口が増えているところとそうでないところなど、地域的な特性などを考慮して、何か特化するような取組が必要ではないでしょうか。それが、2 番にある「再編基本計画」における現状と変動予測にも対応してくると思います。

また、1 番については、早急に進めなければいけない問題だろうと思っています。これを予算の関係で順送りするのはとんでもない話であって、まさに安全・安心の確保や、次を担う子どもたちのためにも、やはりこういった問題は至急、ある意味では負債を背負ってでもやってもらいたいと思います。

埋橋部会長 藤本委員、お願いします。

藤本委員 1 番はおっしゃったとおりですね。今、奈良市で耐震化をまだやっていないところはどれだけの数あるのでしょうか。

教育総務部長 幼稚園を含めた小・中全体の耐震化の話ですが、昨年度でおおむね 83%、本年で 90%の達成を目指して進めているところです。幼稚園と小学校と中学校で多少差はありますが、幼稚園に関しては、新耐震のものや耐震性があるものが比較的多いので、古い小学校や中学校よりは比較的耐震率が高いと思っております。今一覧が手元にあります。個別に説明すると煩雑になりますので。

藤本委員 はい、結構です。あと、一応目標として、何年後に全て完了するという計画はあるのでしょうか。

教育総務部長	今、27年度に9割というのが目標になっていまして、そこをとにかくやろうということで進めています。そこから先は、幼保一元化や小・中の学校規模適正化の問題があり、また児童・生徒数の減少によって母数になる校舎の数が変動するため、達成率としての目標を明確にしにくい状態になっています。
埋橋部会長	耐震化については、2番といろいろと複雑な要因が絡まってくるので、なかなか一概には言えないところですが、この方向に向けて急がれている状況かと思われま。選択と集中という大きな課題が、恐らくこの耐震化ともかかわってくるのだらうと思います。 藤本委員は、幼児教育について、ご意見がございますか。
藤本委員	部会の分野にかかわらず、全体的に前期の総合計画を見て一番感じたことは、奈良市が推進していく計画の中で、何か目玉のようなものがないような気がします。全般的に、まあまあ、そこそこ、おさまればいいかなという感じに見えてきますが、そうではなく、何か「このときにはこれを目玉としてやっといこう」というものが目立ってこないなと感じました。
埋橋部会長	全般的に、目玉というか、キャッチーなものというか、この計画を示されたら奈良市民として活力が出るような、パワフルな文言がないということでしょうか。
藤本委員	そうです。全てにいろいろあるのはわかるのですが、今回はこれをしっかりやっといこう、というようなものが見えたら、やはりちょっと違いが出てくるのかなという気がしました。
埋橋部会長	岡田委員、そのあたりで何かご意見ありませんでしょうか。
岡田委員	少しずれるかもしれませんが、やはり具体的なところが見えません。幼保再編についてもそうですし、この先にある幼小の連携や小中一貫もそうですが、大きな流れはわかっても、具体的に、では自分の地域や自分の小学校、中学校がどうなるのかは、なかなか見えないところもあります。幼保連携でいえば、保護者の中では、例えば幼稚園に行っている親からすれば、保育料が上がるのではないとか、具体的な不安がいろいろあります。その一方で、そうすることで、子どもたちにとって何がよくなるのかがあまり見えてこないということがあるという気もしますので、もう少し具体的なところで話ができればと思います。

埋橋部会長	<p>具体的なところはなかなか。02 につきましては、佐久間委員のご意見の答えはいただいたかと思しますので、一応この項目に沿って進めていきたいと思ひます。その中でまた、こことは別々になっているが、このように考えたらいいのではないかというようなご指摘もいただければと思ひます。</p> <p>では、03 の「義務教育の充実」というところにつきまして、佐久間委員、お願いいたします。</p>
佐久間委員	<p>義務教育の充実につきましては、全ての評価がAとBで、特に大きな問題はないかと思ひますので、まずは目標を掲げて、これをできるだけ具現化していくような方策を考えればいと思ひます。</p> <p>学校運営のところ少し気になったのが、学校評議員の実態が今どうなっているかということです。本当の意味で学校運営にプラスになっているのか、単に教員を忙しくさせているだけではないのかという疑問もあります。</p> <p>それから、私も臨床の資格を持っているのですが、スクールカウンセラーの実態がどうも見えてこないと思ひています。3番については統廃合の問題ですが、特に廃校の活用の問題とか、4番については、これは先ほどの幼稚園のほうと関係しますが、早く100%の耐震化をとということです。</p> <p>5番は特別支援教育の支援員ですが、これも難しい資格というより、やはり資質の問題のほうが大きいのではないかということも感じています。あとは割愛いたします。</p>
埋橋部会長	<p>学校評議員やスクールカウンセラーの実態についての情報は、後日おまとめいただけることと思ひます。この場は委員の方々から率直なご意見を出していただくという形で進めていきたいと思ひます。</p> <p>私は昨年度から、奈良市の幼稚園と保育所を回らせていただいております。何をしているかと申しますと、保育環境評価スケールという保育の質の測定尺度があるのですが、それを実際に当てはめてみてどうかということを見えています。点数はともかくとしまして、保育所は全て回りましたし、幼稚園も今3分の1から2分の1に差しかかっているところです。</p> <p>それで、幾つか考えることがあるのですが、1つは特別支援教育支援員について、幼稚園にも保育所にもおられますが、どのような資格の人がどのような研修を受けておられるのか。また、幼小連携にあたり、就学前に診断が明確にされてはいないが、集団に入れないうようなお子さんがいらっしゃいます。そのようなお子さんへの対応が、その子の特性を鑑みずに、とにかく集団に入れようという方</p>

向がないとは言えないと思います。小学校との連携も必ずしもスムーズとは言えないようなこともあるように見受けられます。そういう実態がありますので、この1校1名という配置について、数的なものも非常に大事ですが、内容についても見なければならぬと思います。これは公立に限らず、幼稚園や保育所からの移行のときにはいろいろ持っておられることがあると思います。そういう現場の声が反映されるような支援教育のあり方であってほしいと思います。

一つ一つ取り上げていきたいところですが、先に進めさせていただきたいと思います。

次に、佐久間委員からご意見を頂戴しておりますが、付箋がついておりませんので、後で総合的なところでご指摘いただければと思います。

次に、「子育て支援の推進」ということで、3-02-01に移ります。佐久間委員、お願いいたします。

佐久間委員 これもまた質問的なことですが、1については支援アドバイザーの養成も重要ですが、効果を上げるためには、ふだんからの幼稚園、学校との連携が必要だと思っておりますが、外部の人を入れないといいますが、連携が非常にとりづらいような雰囲気があるのではないかと思います。

特に経済的な支援については、少し表現が悪いですが、経済的な貧困の再生があるように書いたのですが、変なスパイラルに陥らないようにということです。

3番目が、これも当たり前ですが、事件の報道からわかるように、訪問しても何の権限もなく、それでかえって問題が起きているようなこともありますので、訪問するならそれなりの権限付与が必要ではないかと思います。

4番目に、相談員が4名ということについて、本当に適切かどうかは私も判断できないのですが、やはり人は必要ではないかと思います。

何回も繰り返しますが、施策目標に関しては、本当にこれをぜひ推進していただきたいと思います。以上です。

埋橋部会長 ありがとうございます。子育て支援ということで、藤本委員、ご意見をいただきたいと思います。

藤本委員 支援には、地域とともにやっていく支援や、市がやっていく支援など、さまざまな形があると思います。最近、全般的に欠けているの

は、やはり地域の子育てではないかと思えます。そういった中で、本当に昔のように、もっと地域の方々と、子どもたちを自分たちの子どもとして育てられるような環境づくりができるような地域ができたらいいと思っています。

埋橋部会長 ちょっと飛ばしてしまいましたが、こちらの3-02-01で評価がAとなっているのは、「子育て@なら」など、LINE や Facebook などが活用されている項目かと思えます。これと地域での子育てとはかなり関係してくるところではないかと思うのですが、こういう情報活動と、実際に行われている具体的な事業とのつながりの関連がもう少し見えるほうがわかりやすいのではないかなと思えます。これが充実しているということですが、具体的な事業の数や、市民の反応などがもっと見えるほうが、実際にできているということが伝わると思えます。

次に、付箋のついているところを先に進めます。最後ですが、3-02-03「子育てと仕事の両立支援」です。こちらについても佐久間委員からご意見を頂戴しております。お願いします。

佐久間委員 バンビーホームは時間帯なども非常に工夫されて、多様性に対応できる形になっていますが、バンビーホームの指導員の資格や養成の状況や利用者の満足度などが明記されたら、受益者側の感謝の言葉もいろいろ連なると思うので、そういった評価がぜひ欲しいと思えます。とかくクレームばかり言う人が多いのですが、感謝の言葉があれば、恐らくやりがいが出ると思えます。

2番は保育士の実際的人数と、延長保育等に関して、本当に適正に配置されているのか。あるいは、この短期間では無理かもしれませんが、もう少し先行的な、「奈良に行けば子育ても非常に安心して任せられる」という形での売りができたら、もっと人口も増えてくるのではないかと思えます。そういった意味で、先導的思考という言い方をしたのですが、奈良へ行けばこういったことも手当てしてもらえる、こういった面で不自由なく働ける、ライフワークバランスをうまく保てるという、アドバルーンでも上げられたらと思っています。

3番目は児童館の数の適正配置、4番目は、一時預かりや延長保育における緊急時の対応がどの程度柔軟にできるのかという点をお聞きしたいと思います。適切にできていれば、子どもを育てるのに住みよいまち、ということが言えると思えます。

埋橋部会長 子育てにとって魅力的な市であるということについて、具体的に

は、緊急時の対応策がどれだけ充実しているかということが、特に一番ベースになると思いますが、実施状況については、数値も含めて、情報として提供していただけるのではないかと思います。

全体を見てまいりましたが、ご意見を大きなところでまとめますと、奈良で子育てしたくなるような「売り」や、藤本委員がおっしゃった「目玉」など、この計画に何か特色を感じさせてほしいと思います。最初のグローバル教育に関して、「特色ある奈良の」というときも、世界遺産があるというだけではなく、古きものの上に新しき何を重ねるのかという点で、その新しきアイデアのインパクトがもっと欲しいというところではないでしょうか。

また、それぞれの課の取組が積み上がったプランが出てきていますが、もっと横断的というか、部署の枠を取ったような施策やアイデアが望まれるのではないかと思います。例えば、先ほど青少年の健全育成のところを飛ばしてしまいましたが、岡田委員、個別の施策についてというよりは、青少年の健全育成というテーマで見たときの保育園という視点などでご意見をお聞きしたいと思います。

岡田委員 子育て支援もそうですが、講演会を開くなど、学習の機会が提供されていますが、本当に来て欲しい保護者、本当に聞くべき人が来ません。いつも参加するのは同じ人ばかりで、そのままではあまり広がりがいいのではないかと思います。

だから、もちろんPRも必要ですし、もっといろんな人に、市の取組を知ってもらわなければならないと思います。先ほどの子育て支援サイトをどれぐらいの人が知っているのか、また、開設していることはわかっているけど、活用している人がどれぐらいいるのかはわかりません。青少年の健全育成でいうと、家庭教育の講演会を開いた、学習機会をつくったということも成果なのでしょうが、ではどれぐらいの人が来ていて、そこで何かを得ているのかというところはわかりません。そのような点はどうすればいいのか、という意識をもっています。

埋橋部会長 いわゆるアウトリーチの問題ですが、私が幼稚園や保育園を回って思ったことは、例えば、昨日行ったところは、奈良の割といいところにあり、昔は7クラスずつ、14 教室あり、広い園庭もありました。現在は1クラスずつで、2クラスですが、広々とした園庭があるわけです。一方、その隣には民間の保育園があり、園庭を比べると狭い。外から見れば、どちらも就学前の子どもが行くところですが、公立の幼稚園ではのびのび過ごしていると感じます。

これは建物の使い方と関係してくると思うのですが、今後、耐震

化を進めていくにあたって、例えば今ある幼稚園の建物を耐震化するのであれば、その建物をどう生かすかという中身の議論がないと難しいのではないかと思います。特に幼稚園を見て回ると、これだけ空いているのにもったいない、ほかにどうにかならないのかと。これは、全て奈良市の公立という立場で解決しなくてはいけないのか、それとも、きれいにして民間に貸し出すというようなことができるのだろうかと思います。

そのため、一部の幼稚園については、建物を整備して、民間の事業者に入ってもらおうという事業も展開されているのは存じ上げていますが、もう少しダイナミックに動けないかと思います。幼稚園というのは奈良市に38カ所ぐらい、それもいいロケーションのところにあります。人数が減ってきたから統廃合という考え方も1つですが、もう少し前向きな、アクティブな活用の仕方を考えて、人が集えたり発信できたりする場の提供とリンクして考えることはできないでしょうか。

また、全体的に、「市がこういうことをする」というばかりではなく、民間の営利企業とのタイアップや、ボランティアにお力を貸していただくことも含めて、市だけであることと、市と民間が協力することなど、新しいアイデアのバリエーションが必要ではないかと思っています。

そのときに中心になるコンセプトは、やはり世界遺産など、歴史と伝統ある奈良の強みを生かせるものだと思います。それぞれの地域に何かがあるので、イベントをするにしても非常にやりやすいと思います。

非常に変わりにくいところもありますが、そこを打ち破るべく、コーディネーター的な役割を果たすのは、やはり市の力ではないでしょうか。市が全部出さなくても、民間にある力を何とかつなぎ合わせることなどを考えると、そこに「売り」や「目玉」をつくりだしていけるのではないかと思います。

藤本委員、いかがでしょうか。

藤本委員 よくわかります。今は、中長期的に物事を考えて、先々を追っていかねばなりません。計画期間の残り5年は、あっという間に過ぎてしまいます。

今の幼稚園の状況を考えると、やはり先を見つめた幼稚園の建築がされていなかったのではないかと思います。奈良市としての1つの失敗かと思っています。その時期に幼稚園が必要とされて、いろんな校区に幼稚園が建てられたという経緯はわかりますが、もう少し早く対処できたのではないかという気はしています。

そういった意味合いの中で、奈良市において、幼稚園と保育園が合体しながらやっていかれるのも、やはり今後もう少し先を見て、今このような状況だから一緒になるというのではなく、もっと先を見た計画が必要になってくるかと思えます。

私たちにとって、今現実に見えているのは、少子高齢化です。高齢者が増えて、子どもがものすごく少なくなって、少子化がほんの目の先にあるという現状において、もう少しそれを取り込んで、もっと先を見た計画を考えることが必要です。同時に、やはり現場の声を聞いてほしいと思えます。公立園の現場は皆さんご存じでしょうが、私立の現場の声、園長先生の声も大いに聞いていただいて、みんなで一緒に先を見つめた計画をつくっていきましょうという気持ちにならない限り、だめかなという気がします。

やっぱり奈良市に生まれてよかった、こんなところがあるんだ、と思えるようなところ。この前テレビでやっていたのですが、日本で一番子育てしやすいまちがあり、やはりそこには目玉があるのです。それがあってこそ、子どもたちも人も集まると思えます。

埋橋部会長 ありがとうございます。岡田委員、お願いします。

岡田委員 僕は具体的なことにどうしてもこだわってしまうのですが、今、小学校区単位や中学校区単位で、地域での学校づくりを進めていると思えます。もちろん、幼稚園に地域の方が入られて子育て支援をされているとか、小学校では地域の方が持っているいろんな知識を生かした授業をされているとか、いろいろ取組をされているのですが、一方で、幼稚園が適正化で統廃合される、また耐震化に伴って施設を削るなど、そのような問題と地域での取組がぶつかってしまう時に、どちらを優先させるのかというところがよくわかりません。例えば、地域でその学区を盛り立てているのに、肝心の学校がなくなってしまう場合などを、どう捉えられているのかが気になります。

ほかの項目もそうですが、一つ一つの項目はわかるのですが、それがどうつながっていくのかというところが見えないこともあります。

埋橋部会長 佐久間委員、お願いします。

佐久間委員 これは個人的なこだわりですが、やはり奈良市はもっともっと活気のあるまちにならないといけないのではないかと思っています。非常に住みよいまちという評価はそれなりに受けていますが、いま一

つ活気がないと思います。そのためにはやっぱり若い人を呼び込まなければいけない。若い人を呼び込むためには、大学を持ってこなければいけないというのが私のこだわりなのですが、それも定員に満たないような大学では仕方がないので、それなりのブランド力のある大学を持ってこなければなりません。若い人をまず集めることが重要だと思います。

それと、これもこだわりなのですが、奈良県もそうですが、奈良市も若者の規範意識が低いと思います。いろいろな事件なども、統計では奈良県は悪いほうに入りますが、規範意識を植えつけるためには、やはり体験で学ばせることが必要だと思います。そのために、黒髪山キャンプフィールドが活用できるのではないのでしょうか。キャンプフィールドの利用率が低いと出ていたと思うのですが、あのようなところで、アメリカのサマーキャンプのようなものを実施し、規範意識を身につけていくとよいと思います。

学校の理想論は語られるのですが、いわゆる現実的な問題として、統廃合は、公立、私立の垣根なく、やむを得ない状況だろうと思います。2000年に遠山敦子文科大臣が言ったころから出ている問題ですけれども、これから急激にそういったことが進んでくると考えています。奈良市は、子どもたちがある程度の年齢になるとみんな大阪へ行ったりしますが、何かそういったものを引きとめる方法はないのかと思います。工場を持ってこられないのなら、やはり学校を持ってくるしかないのではないかと。これは個人的なこだわりで、非常に難しいのですが。

埋橋部会長

ありがとうございます。幼保一元化だけではなく、今後は統廃合が随分大きな課題になってくると思います。廃止されるほうの辛さなどもあると思うのですが、それでも次世代を育てるという大きな目的を考えたときに、未来に向けてこういう希望が持てる、それを見ると力が湧いてくる、というような、何かインパクトのあるものを示してほしいと思います。

そのために、今いろいろな事業をされているのだと思います。私は幼稚園と保育所を回っただけですが、いろいろあるのだと思いました。ただ、それがあまりよくわからない、見えないのです。

もう少しこれを横断的に、組織の中の枠を外し、また、市だけではなく、民間をうまくジョイントさせていくというような仕組みの改善と、夢を感じさせてくれるような、大きな目標の提示、古いものを大事にしていくけれど、そこから知恵を発揮していただきたいなというところが、私の最後の印象です。

他にご意見はございますでしょうか。

佐久間委員	これは事務局に対してのお願いなのですが、私はあまり現状を知らないなので、ぜひ視察ツアーのような、現状を見られるチャンスをいただきたいと思います。そうすればまた発想も変わってくると思います。今のところは、出てきた資料と、自分の個人的な偏見を交えた感想しか述べられず、非常に申し訳ないので、ぜひそういった企画をお願いしたいと思っています。
埋橋部会長	そこに、先ほど藤本委員からお話があった民間の力や、いろんな人がかかわってくる仕組み、現場の声が入ってくるような仕組みも望まれるところではないかと思います。
藤本委員	部会長は幼稚園、保育園を回られたと聞いているのですが、公立園ですか。
埋橋部会長	公立園です。
藤本委員	そうですか。ぜひ私立園を回ってください。それは私の要望ですが、やはり一度私立園も回っていただきたいです。
埋橋部会長	<p>以上で予定していた議題は終了いたしました。ほかにご意見、ご質問等ございませんでしょうか。</p> <p>ないようでしたら、これで本日の会議を終了させていただきます。ありがとうございました。</p>
資 料	<p>【資料1】 施策別の総合評価結果一覧（課別）</p> <p>【資料2】 施策別の「目標の達成度を評価する指標」の実績と目標達成見込</p> <p>【資料3】 奈良市第4次総合計画 前期基本計画の総括結果</p> <p>【資料4】 施策体系・実施計画事業一覧表</p> <p>【資料5】 奈良市のまちづくりに関する市民アンケート報告書（第1部会）</p>